

静岡市プラモデル計画事業については、地域づくりの改善すべき点に融合し、「多様なにぎわいの創出」という視点での評価に修正。 内容としては、富士山コスプレ世界大会や静岡の食文化に視点を置いた静岡おでん祭りなど多彩なメニューの文化事業に取り組んでいることから、評価できる点に追記。 改善すべき点 歴史博物館 第2回審議会時に意見の出た「大河ドラマ館」、「SNS を活用した情報発信」の内容を包含させた意見に修正。	
質疑・意見等 ・静岡市プラモデル計画事業は、市内外に効果的にアピールしている特徴的な事業であり、総括書の中で取り上げるべき事業だと感じた。当該事業は自治体として初めて広告大賞(第76回広告電通賞)も受賞している。このような活躍している事業がホビーのまち推進事業の中の一つとしてまとめられて総括書の中に書かれてしまうのはもったいない。 ・今回は令和5年度の総括書となるため、令和6年度の実績を受けて、次年度の総括書にはしっかり載せていただきたい。 ・評価総括書の中に目指す将来像(最終目標)が載っていないので追加してほしい。 ・「評価できる点」に記載されている項目の文末が「期待する」や「●●してほしい」という言い方になっている。これは、下段の「改善すべき点・今後の事業に期待すること」で使用すべき表現ではないか。 ※「文化でつながるまちづくり」箇所 ・「評価できる点」に入っている「●●してほしい」は、ポジティブな意味合いであって、下段の「改善すべき点・今後の事業に期待すること」は、「もう少しこうしたいほうがいい」という意味があると思うので、そのような括りで理解をしてもらったらどうか。 ・「継続したい」という表現はどうか。 ・「評価できる点」に入っている「●●してほしい」は、一定の評価をした上でそのまま続けてほしいという意味で記載している。 ・「継続したい」という表現に修正する。 ・本来、評価をするというのは、当該年度の効果を見て、次年度予算の編成において増やすのか、減らすのか、廃止なのか検討する要素にするべきものである。日本の予算／決算はタイミングがずれているので、ほとんど意味を成していない。ここで継続したいとなったら次年度の予算もきちんと確保するという意味で明文化す	久野委員 平野会長 海野委員 久保田委員 平野会長 望月課長 佐々木副会長

るのが本来の評価であると思う。効果があるから継続する、効果がないから廃止する、予算とリンクしていないと基準が分かりづらくなる。難しいのは分かるが、そういった形に近づけていくことも大事。 ・本来は次年度の予算要求に繋げていくのが理想であるが、時期がずれてしまっており、各課も既に次年度の予算要求をしてしまっているの、事業の廃止まで言及するのは難しい。今回の総括書は、「評価できる点」というところでは事業を継続していき、「改善すべき点・今後の事業に期待すること」では、各所管課が次年度の事業に向けて内容を改善するヒントにできるようなものとして活用してもらえればと考えている。 ・「文化ではぐくむ地域づくり」における「改善すべき点・今後の事業に期待すること」1項目目で「ホビーのまち推進事業は、今後、世界的にも注目が集まる視点であり評価したい。」となっている。上段は「評価」、下段は「期待したい」という構造になっているので、上段に具体的に「プラモニュメント」の表現を入れてもよいのではないか。 ・それを令和5年度の総括書の中に記載するかどうかという点もある。令和6年度の取り組みのため、令和6年度の総括書の中に入れていった方が具体的な評価ができると思うが、いかがか。 →了承 ・「ホビーのまち推進事業」において、「評価したい」は視点を評価している。上の評価できる点とは違ってくと思う。紛らわしいのであれば「視点であるので、評価したい」としたらどうか。 ・サードプレイス(第3の居場所の増加)という表記はわかりやすくなったと思う。これは、修正をしてほしいとかではなく、参考意見としてだが、自身が参加している東京都のあるエリアの今後の計画を策定していく業務の中でも、サードプレイスという言葉これまで使っていた。最近の議論で、「サードプレイス」という元の意味に立ち返ったときの意味では間違いはないが、今、「第1の居場所」、「第2の居場所」というような、「家庭」と「仕事」あるいは「学校」のような考え方が働き方も変わってきて、きっちり分けられるものではなくなっている中で、第1第2第3という分け方は、少し古くなりつつあるのではないかという議論があった。今回は元々計画の中に「サードプレイス」という言葉が入っているので、これはこれでいいと思うが、今後、少し「サードプレイス」の意味を考え直す議論があってもいいかなと思う。 ・「視点であるので、評価したい」の「評価したい」が紛らわしいのであれば、「視点である」にしたらどうか。 →「視点である」に修正する。	望月課長 久保田委員 平野会長 各委員 伊藤委員 久保田委員
--	---

	・総括書を1枚にまとめなければならない理由は何か。 1枚にまとめると載せられる文章量にも限界がある、各項目において枠の配分も同一なので、ボリュームを付けて評価したい事業があっても、削除したり集約しなければならず表現がしきれてない。もう少し自由なまとめ方ができるとよい。 ・総括書としては、1枚に集約し、議事録で補完しながら見ていただくというやり方を取っていた。総括書の様式については、計画の中で重点を置いている部分の評価にボリュームを置くという見せ方は今後対応としては可能である。ただ、1枚にまとめた方が市民にとっては分かりやすいのではないかと考えている。 ・見せ方については、令和6年度からの総括書で対応する。 →了承 ・全体の体裁を整える修正をお願いしたい。 ①「文化ではぐくむ地域づくり」 「改善すべき点・今後の事業に期待すること」 1項目 →「期待する」に修正 ②「文化でつながるまちづくり」 「改善すべき点・今後の事業に期待すること」 1項目 →「期待する」に修正 ③「文化でにぎわうまちづくり」 「評価できる点」 →文末「評価できる」の前の読点を取る。 ④全体評価 ①部分 誰もが参加可能な文化事業をより一層推進していくため、文化事業のその内容・方法の多様化を図るとともに、対面で実施する文化事業に加え、オンラインや仮想空間を通じて参加できる文化事業の展開に期待したい。「外に出ること」や「集団の中に入っていくこと」に抵抗のある層が文化に触れる機会から乖離してしまうことのないよう、内容・方法・空間という3つの視点で取り組みを検討していくことが望ましい。 「文化事業」が多発するため、以下のように修正 誰もが参加可能な文化事業をより一層推進していくため、その内容・方法の多様化を図るとともに、対面で実施する取り組みに加え、オンラインや仮想空間を通じて参加できる事業の展開に期待したい。	海野委員 福原主査 望月課長 各委員 平野会長
11:05	事務連絡・閉会	平野補佐

署名(会長)

平野雅彦

署名(委員)

平藤香織